

## Memo

## 株主メモ

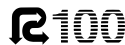
事業年度	3月1日から2月末日まで
剰余金の配当の基準日	2月末日 中間配当を行うときは8月31日
定時株主総会	毎年5月中
基準日	2月末日。その他、必要ある場合は、あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
郵便物送付先 お問い合わせ先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター ☎ 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店、全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
単 元 株 式 数	1,000株

最新のIR情報はホームページにも掲載しています

URL <http://www.pickles.co.jp>

## 株式会社ピクルスコーポレーション

〒359-0037  
埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3  
TEL 04-2998-7771 (代表)  
FAX 04-2998-7776



この事業報告書は、環境への配慮のためVOC(揮発性有機化合物)を使用しない大豆油のインクおよび再生紙を使用しています。

第 30 期

2005.3.1.~2006.2.28.  
株式会社ピクルスコーポレーション  
事業報告書



野菜の元気をお届けします。  
**PICKLES**<sup>®</sup>  
New Traditional Taste

## New Products



和キムチ



ピリッ辛ごま白菜



いか昆布白菜



白菜キムチ



叙々苑キムチ



ガンパってや! 福神漬



四季香彩 浅漬きゅうり



へた取り仙台長なす



カレーライス用福神漬

## Contents

株主の皆さまへ	1	連結財務諸表	8
社長インタビュー		個別財務諸表	10
営業の概況と今後の戦略・展望	2	株式情報	11
財務ハイライト	6	会社情報	12
		野菜の可能性を訪ねて〈白瓜〉	13

## 株主の皆さまへ



代表取締役社長 萩野 芳朗

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社第30期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用環境改善、好調な民間設備投資により景気回復感が広がったものの、所得格差の拡大や増税等の影響により、依然として厳しい状況で推移しています。食品業界におきましては、販売単価の下落傾向が続いており、また、原料原産地表示やトレーサビリティ等の「食の安全・安心」が強く求められております。

このような状況のもと、当社グループは、全国の製造・販売拠点を活用した積極的な新規取引先の開拓と、既存得意先への拡販を実施いたしました。製品面では、「ピリッ辛ごま白菜」の全国展開、浅漬製品の惣菜売場での展開等に力を注いでまいりました。グループ事業再編につきましては、7月に製造の効率化と品質向上を目的として、当社子会社の(株)八幡屋の茨城工場を全面改装いたしました。

以上の取り組みの結果、当連結会計年度の業績は、新規取引先への拡販はあったものの、外食産業向け青果物販売の縮小などの影響により、売上高は16,563百万円となりました。利益面では、製品単価下落の影響はあったものの、生産・物流体制の再構築などの合理化や原材料費の低減により、経常利益は205百万円となりましたが、工場再編などによる固定資産除却損等の発生により、誠に遺憾ながら、当期純損失は37百万円となりました。

来期につきましては、引き続き全国ネットワークを活かした営業展開を進め、既存得意先への拡販、新規取引先の開拓を進めるとともに、浅漬、キムチ製品の開発強化に取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

## 全国ネットワークとベンダー機能を活用し、さらなる成長をめざします。

現在の漬物業界の状況から今後の展望まで、代表取締役社長・荻野芳朗がお話しいたします。

### 漬物業界の状況

**厳しい状況のなか、成長するためのポイントは品質、商品力、生産体制。**



漬物業界の市場規模は約4,200億円、企業数は約2,000社といわれています。そのなかで、売上高100億円超の企業は5、6社程度しかなく、ほとんどは地域密着の事業展開をしている中・小メーカーです。

漬物業界は、主要得意先であるスーパーマーケットの寡占化が進んでいる影響もあって、業界全体の市場規模は縮小傾向にあり、寡占化に入りつつあります。また、小売企業のオーバーストアやデフレの影響による売価下落傾向等が続いており、昨年からの厳冬による原料高騰、輸入キムチの不振等も加わり、各社厳しい状況となっています。

このような状況のなか、今後当社が漬物業界で成長していくためには、重要なポイントが3点あると考えています。

まず、消費者の食品に対する安全・安心への意識の向上に伴い、今まで以上に高いレベルでの対応が求められる品質・衛生管理。2点目に、人口減少、高齢者増加により食品の需要全体が低下したときにも選ばれる、消費者から見て「なくては困る商品作り」。3点目は、全国に店舗展開を行う大手量販店の需要に対応できる生産体制、物流体制の構築です。

### 今後の課題

**全国を網羅した生産・販売拠点を活かし、さらなる成長へ。**

先ほどお話ししたとおり、漬物業界は、中・小メーカーが多く、当社のように全国を網羅した生産・販売拠点をもつ企業はありません。また、当社は全国各地の優良漬物メーカーと取引があり、自社製造していない梅干、生姜等でも供給できるベンダー機能を備えています。こうした当社の強みを活かしていくことが経営課題と考えています。

今期は、当社グループの3ヵ年計画の2年目にあたります。当社グループの強みである全国ネットワークとベンダー機能の活用により、新規取引先の開拓、既存得意先への拡販を進めます。営業戦略として、「ピリ辛ごま白菜」などのナショナルブランド製品の育成を進めます。また、新たな販路として、量販店の漬物売場だけでなく、惣菜売場向けに当社浅漬製品を販売していきます。

自社製品では、新製品として、大手高級焼肉店の(株)叙々苑と共同でキムチの開発に取り組んでいます。この商品は、今期中に量販店向けに販売を開始する計画となっています。関西地区の子会社(株)彩旬館では、Jリーグのガンバ大阪のスポンサーとなり、ガンバ大阪ブランドのキムチ、福神漬等の製品を開発し、販売していきます。また、東北地区の仙台長なす、関西地区の水なすなど、全国にある生産拠点の地元特産野菜を使用した製品の開発・販売を強化していきます。

仕入商品については、ラインナップを拡大するために、海外完成品の輸入・販売を行います。これらは、現地の原料栽培、生産管理をきちんと行っている食品商社などと連携し、安全性を確保しています。



叙々苑キムチ



全国展開中のピリ辛ごま白菜

また、前期に引き続き、研究部門の人員および設備を強化し、製品品質向上のための基礎研究に取り組んでいきます。

不採算部門の改善ですが、子会社の(株)八幡屋については、前期まで生産体制の再構築などの合理化は一段落しており、今期はグループ販路を活用した積極的な営業活動、国産原料を前面に押し出した製品の開発・販売に取り組んでいきます。中京地区については、地元スーパーの新規開拓を積極的に行うとともに、既存得意先への拡販を進めます。東北地区については、前期までに実施した生産体制の再構築によって生産効率が改善したため、今後は地元スーパーへの拡販等を進めていきます。



新築中の研究棟

環境への取り組み

**グループ内の  
ISO14001認証取得を  
推進。**

環境への取り組みは、経営方針の一つとして積極的に行っています。

例えば、ISO14001のグループ会社での認証取得を進めています。前期は、当社の中京工場、子会社の(株)札幌フレストで新たに認証を取得しました。

法令遵守という観点においては、食品リサイクル法への対応も従来から進めており、生ゴミ減量化プラントや破砕脱水機等を導入し、生ゴミの減量化等を行っています。

環境保全には当社だけではなく、取引先も含めた活動が必要です。当社は従来より、納品業者、設備メンテナンス業者、廃棄物処理業者などに対し、夜間の納品の制限、敷地内でのアイドリングストップなどへの協力を依頼しています。



ISO審査の様子(中京工場)

CSRへの取り組み  
**経営方針を実現し、  
企業の社会的責任を  
果たす。**

当社は経営方針として、食の安全、働きやすい職場作り、環境への配慮を掲げています。

こうした経営方針を実現することこそが、当社の社会的責任を果たすことと考えていますが、なかでも拠点構築のための投資が一段落した前期からは、人への投資を積極的に行おうと考えています。具体的には、社員教育制度を充実させ、自己啓発や資格取得の支援制度を導入し、従業員一人ひとりの能力向上をめざしています。

また、社内表彰制度や自己評価制度を活用することで、従業員全体のモチベーションを高め、働きやすい職場をめざしています。さらに、社員は誰でも、eメールや書面により経営者に直接意見を伝えられる体制を構築するとともに、毎年グループ社員を対象とした方針説明会を開催し、社長から経営方針や年度方針を直接伝えるなどのコミュニケーションを図っています。

品質管理については、工場にてHACCPの考え方に基づいた品質・衛生管理システムの構築に取り組んでおり、パートタイマーを含めた全従業員への教育も実施しています。安全性・鮮度などを考慮し、自社製造品の原料野菜には国産のものを使用。トレーサビリティへの対応のため、以前から契約栽培に取り組んでいます。商品に対するお客さまからのご意見・ご要望などは、関連部門で共有するとともに、経営者に届くシステムを構築しています。

地域貢献活動としては、地域の清掃活動への参加、環境保全団体等への協賛など、幅広く取り組んでいます。スポーツ振興のためにバスケットボールチーム「さいたまブロンコス」への協賛も行っています。

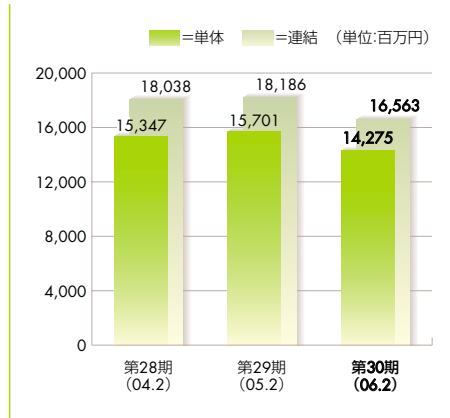


方針説明会の様子

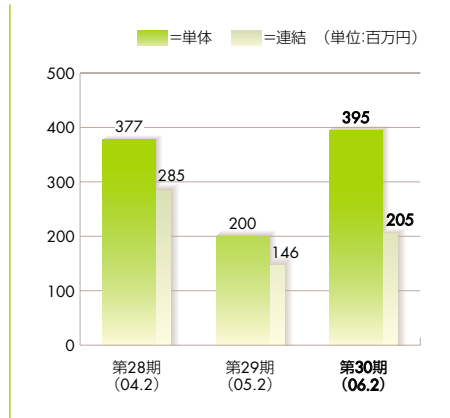


方針説明会での社内表彰

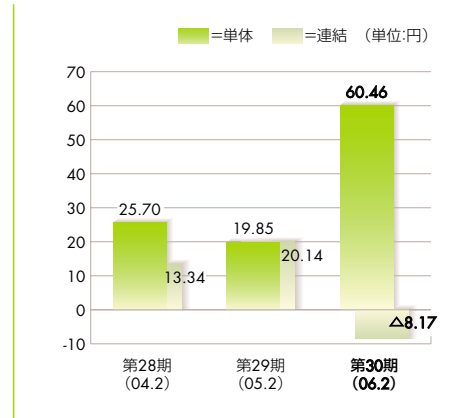
●売上高



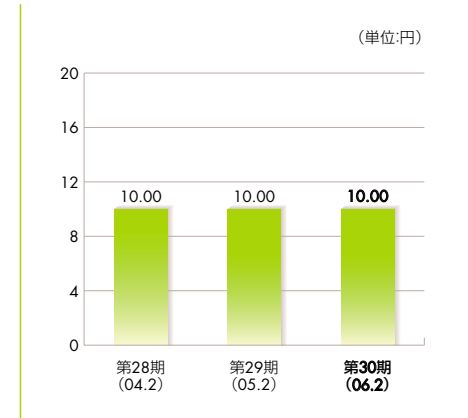
●経常利益



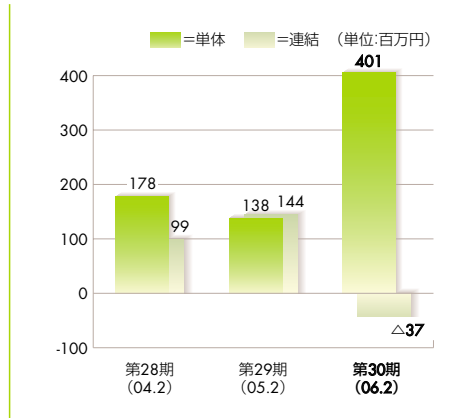
●1株当たり当期純利益



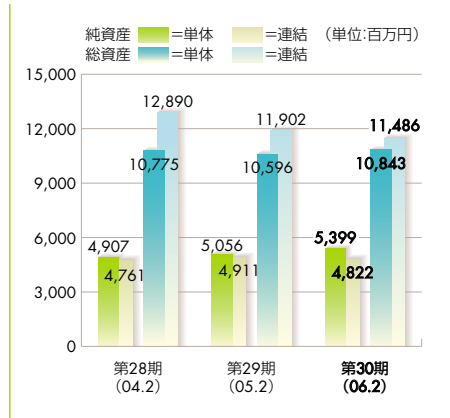
●1株当たり配当額



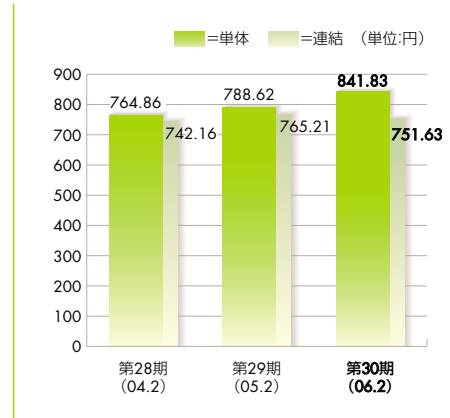
●当期純利益



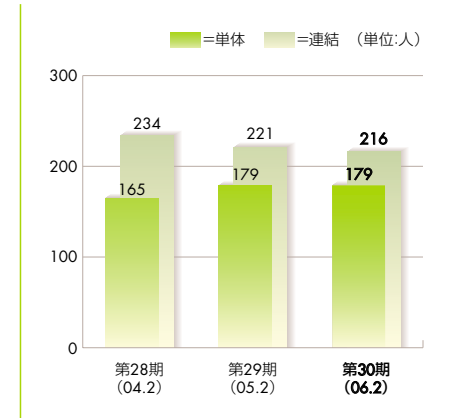
●純資産/総資産



●1株当たり純資産額



●従業員数



連結財務諸表

●連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2006年2月28日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>●資産の部</b>		
流動資産	<b>2,253,488</b>	<b>2,408,009</b>
現金及び預金	402,476	483,274
受取手形及び売掛金	1,539,652	1,548,419
たな卸資産	230,748	253,535
繰延税金資産	51,101	53,297
その他	38,044	84,932
貸倒引当金	△8,535	△15,450
固定資産	<b>9,233,054</b>	<b>9,494,902</b>
有形固定資産	<b>8,322,280</b>	<b>8,723,780</b>
建物及び構築物	2,023,447	2,142,846
機械装置及び運搬具	603,856	636,080
土地	5,656,270	5,916,045
建設仮勘定	10,500	—
その他	28,206	28,808
無形固定資産	<b>45,432</b>	<b>63,610</b>
その他	45,432	63,610
投資その他の資産	<b>865,341</b>	<b>707,512</b>
投資有価証券	589,112	450,222
破産債権、再生債権、更生債権 その他これらに準ずる債権	202,394	202,394
繰延税金資産	184,604	174,816
その他	91,624	82,472
貸倒引当金	△202,394	△202,394
資産合計	<b>11,486,542</b>	<b>11,902,911</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

科目	当期 (2006年2月28日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>●負債の部</b>		
流動負債	<b>3,880,186</b>	<b>3,826,027</b>
支払手形及び買掛金	1,365,430	1,368,024
短期借入金	1,302,895	1,794,592
1年以内償還予定の社債	500,000	200,000
未払金	175,319	146,827
未払法人税等	228,499	1,414
賞与引当金	71,721	76,015
その他	236,320	239,153
固定負債	<b>2,783,709</b>	<b>3,165,538</b>
長期借入金	1,849,840	1,616,135
社債	—	501,500
退職給付引当金	136,563	118,521
役員退職慰労引当金	72,572	63,384
繰延税金負債	69,686	175,109
連結調整勘定	649,593	686,384
その他	5,454	4,505
負債合計	<b>6,663,895</b>	<b>6,991,566</b>
<b>●少数株主持分</b>		
少数株主持分	—	—
<b>●資本の部</b>		
資本金	<b>740,900</b>	<b>740,900</b>
資本剰余金	<b>669,100</b>	<b>669,100</b>
利益剰余金	<b>3,360,557</b>	<b>3,470,312</b>
その他有価証券評価差額金	<b>52,467</b>	<b>31,410</b>
自己株式	△378	△378
資本合計	<b>4,822,646</b>	<b>4,911,345</b>
負債及び資本合計	<b>11,486,542</b>	<b>11,902,911</b>

●連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2005年3月1日から 2006年2月28日まで)	前期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)
売上高	<b>16,563,275</b>	<b>18,186,531</b>
売上原価	13,379,819	14,928,335
売上総利益	<b>3,183,455</b>	<b>3,258,196</b>
販売費及び一般管理費	3,025,133	3,184,163
営業利益	<b>158,322</b>	<b>74,032</b>
営業外収益	105,905	129,774
営業外費用	58,848	57,285
経常利益	<b>205,378</b>	<b>146,521</b>
特別利益	98,680	67,142
特別損失	178,264	65,482
税金等調整前当期純利益	<b>125,795</b>	<b>148,180</b>
法人税、住民税及び事業税	<b>269,405</b>	<b>47,028</b>
過年度法人税、住民税及び事業税	<b>23,449</b>	—
法人税等調整額	△129,091	△43,835
当期純利益又は当期純損失(△)	<b>△37,968</b>	<b>144,987</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

●連結剰余金計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2005年3月1日から 2006年2月28日まで)	前期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)
<b>●資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	<b>669,100</b>	<b>669,100</b>
資本剰余金期末残高	<b>669,100</b>	<b>669,100</b>
<b>●利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	<b>3,470,312</b>	<b>3,325,345</b>
利益剰余金増加高	<b>11,766</b>	<b>222,644</b>
利益剰余金減少高	<b>121,521</b>	<b>77,677</b>
利益剰余金期末残高	<b>3,360,557</b>	<b>3,470,312</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2005年3月1日から 2006年2月28日まで)	前期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>519,066</b>	<b>240,908</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△106,636	<b>204,657</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△497,482	△528,625
現金及び現金同等物の減少額	△85,053	△83,059
現金及び現金同等物の期首残高	<b>483,274</b>	<b>566,333</b>
新規連結子会社の現金及び 現金同等物の期首残高	<b>4,255</b>	—
現金及び現金同等物の期末残高	<b>402,476</b>	<b>483,274</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

●貸借対照表(要旨)

科目	当期 (2006年2月28日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>●資産の部</b>		
流動資産	2,096,745	1,836,421
固定資産	8,746,370	8,759,970
有形固定資産	7,731,114	7,887,101
無形固定資産	31,702	39,479
投資その他の資産	983,553	833,390
資産合計	10,843,115	10,596,391

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

●損益計算書(要旨)

科目	当期 (2005年3月1日から 2006年2月28日まで)	前期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)
売上高	14,275,460	15,701,067
売上原価	11,565,383	13,004,528
売上総利益	2,710,077	2,696,539
販売費及び一般管理費	2,457,931	2,537,924
営業利益	252,145	158,615
営業外収益	211,687	91,322
営業外費用	68,027	49,335
経常利益	395,806	200,601
特別利益	355,590	—
特別損失	98,046	10,021
税引前当期純利益	653,350	190,580
法人税、住民税及び事業税	268,424	46,036
過年度法人税、住民税及び事業税	20,841	—
法人税等調整額	△37,016	5,908
当期純利益	401,100	138,635
前期繰越利益	1,421,279	1,438,668
合併による抱合せ株式消却損	—	77,000
合併による未処理損失受入額	—	8,609
当期未処分利益	1,822,380	1,491,693

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

(単位:千円)

科目	当期 (2006年2月28日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>●負債の部</b>		
流動負債	3,488,209	3,389,992
固定負債	1,955,244	2,149,806
負債合計	5,443,453	5,539,798
<b>●資本の部</b>		
資本金	740,900	740,900
資本剰余金	707,674	707,674
利益剰余金	3,911,650	3,586,121
其他有価証券評価差額金	39,815	22,276
自己株式	△378	△378
資本合計	5,399,661	5,056,592
負債及び資本合計	10,843,115	10,596,391

●利益処分計算書(要旨)

科目	当期 (2006年2月期)	前期 (2005年2月期)
当期未処分利益	1,822,380	1,491,693
任意積立金取崩高	2,093	5,158
特別償却準備金取崩高	2,093	5,158
合計	1,824,474	1,496,851
利益処分量	78,272	75,572
配当金	63,972	63,972
役員賞与金	14,300	11,600
次期繰越利益	1,746,202	1,421,279

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

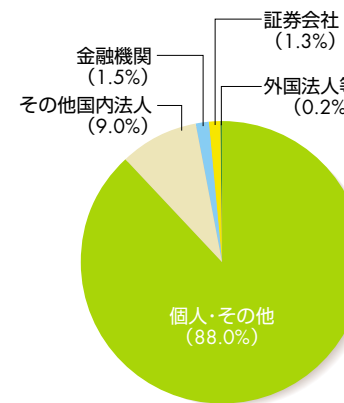
●株式の状況(2006年2月28日現在)

会社が発行する株式の総数	23,592,000株
発行済株式総数	6,398,000株
株主数	466人

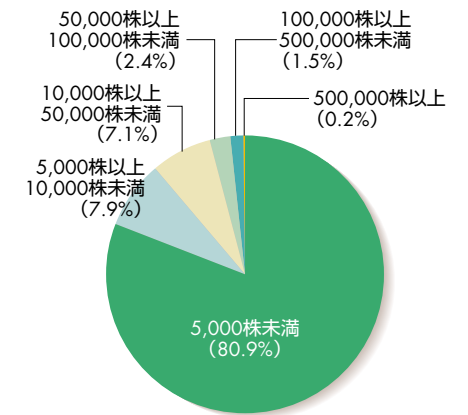
●大株主の状況(2006年2月28日現在)

	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
東海漬物株式会社	3,178,200	49.67
荻野芳朗	225,500	3.52
株式会社埼玉りそな銀行	183,000	2.86
株式会社みずほ銀行	180,000	2.81
ピククルスコーポレーション従業員持株会	156,980	2.45
株式会社セブーン・イレブン・ジャパン	140,000	2.18

●所有者別株主数分布状況(2006年2月28日現在)



●所有株式数別分布状況(2006年2月28日現在)



● 会社概要 (2006年2月28日現在)

商号	株式会社ピクルスコーポレーション (英訳名 PICKLES CORPORATION)
本社所在地	〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3 TEL 04-2998-7771 FAX 04-2998-7776
設立	1977年(昭和52年)2月17日
資本金	740,900千円
従業員数	179名(男141名/女38名) 上記の他にパートタイマー186名がおります。
事業内容	浅漬・惣菜の製造、販売及び 青果物・漬物等の販売

● 主な事業所 (2006年2月28日現在)

- ・本社 ..... 埼玉県所沢市くすのき台3-18-3
- ・統括事業本部 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・所沢工場 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・所沢第2工場 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・千葉工場 ..... 千葉県八街市文違301
- ・湘南ファクトリー ..... 神奈川県平塚市大神3036-25
- ・大宮ファクトリー ..... 埼玉県北足立郡伊奈町大針字大里1197
- ・宮城ファクトリー ..... 宮城県加美郡加美町字雁原725
- ・福島工場 ..... 福島県安達郡本宮町荒井青田原1-203
- ・中京工場 ..... 愛知県瀬戸市京町2-12
- ・物流管理センター ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1

● 主な子会社 (2006年2月28日現在)

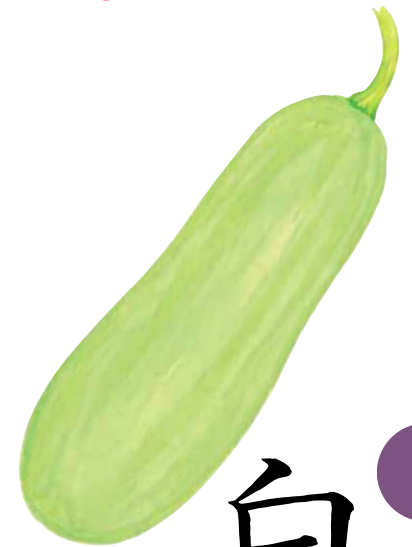
- ・株式会社札幌フレスト(北海道)
- ・株式会社彩旬館(大阪府)
- ・株式会社八幡屋(東京都)

● 役員紹介 (2006年5月30日現在)

代表取締役社長	荻野 芳 朗
常務取締役	影山 直 司
常務取締役	宮本 雅 弘
取締役	大羽 邦 明
取締役	蓼沼 茂
取締役	大羽 恭 史
常勤監査役	松野 剛 士
監査役	杉浦 文 俊
監査役	松野 昭
監査役	杉江 誠

野菜の可能性を訪ねて.....

# Vegetable



第八回

しろつくり

## 白瓜

意外と知られていないけれど、  
歴史の古い伝統的な野菜。

白瓜はウリ科の夏野菜で、アフリカが原産といわれています。中国では古代から主に漬物に用いられていました。日本には2000年以上前に伝来したといわれ、奈良時代の書物に記録が残っているほど古くからある野菜。

旬は5〜10月。産地は関東以南が中心です。千葉県や徳島県が主産地として知られています。ピクルスでは6月前後に浅漬に使用しており、その多くは日本一の生産地である千葉県香取郡干潟町から調達しています。

真っ白ななかには栄養たっぷり。  
食べ方は国により様々。

白瓜は90%以上が水分で、カロリーは非常に低く、カリウムとビタミンCが含まれています。同じウリ科のスイカなどと同様、利尿促進や、あせもによいといわれています。

生だと味や香りはほとんどなく、味付けをして食べるのが一般的です。淡泊な持ち味を活かした漬物類では、酒粕で漬けた奈良漬が有名。アジア南部・西部では、カレーやスープに入れて煮込んで食べたり、果肉を薄くスライスして干し、保存食とすることもあります。

聞いて得する!?

### 白瓜選びのポイントと保存法

白けすぎているもの、皮に光沢があるもの、下部が極端に膨れていないもの、こすれ痕のないものを選びましょう。  
鮮度低下が速いので、長期保存は難しい野菜。ラップをして冷蔵庫に入れば、2〜3日は鮮度を保つことができます。